

## 第7章 滝遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

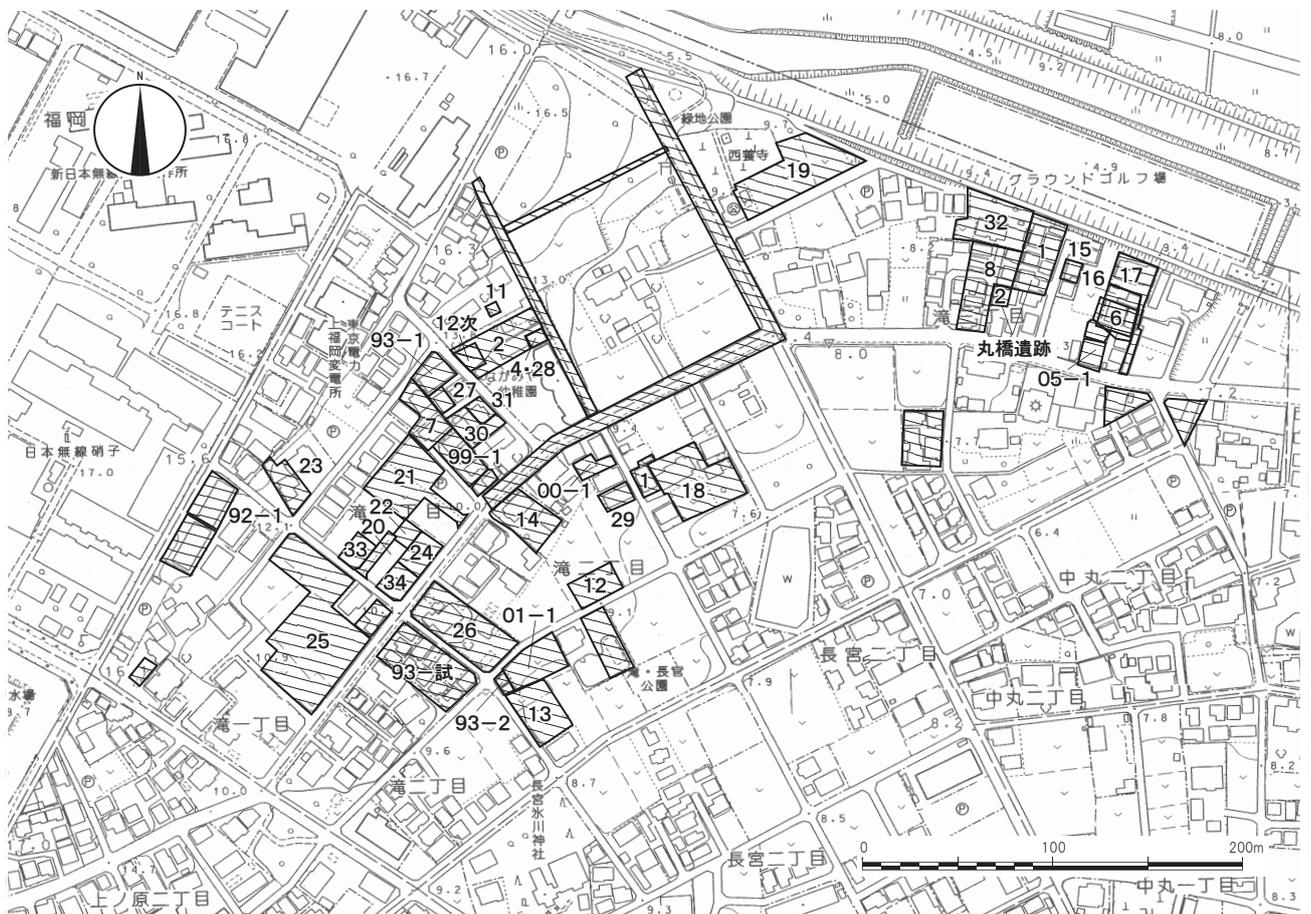
滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250 m、東西500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来2019年4月現在、46ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

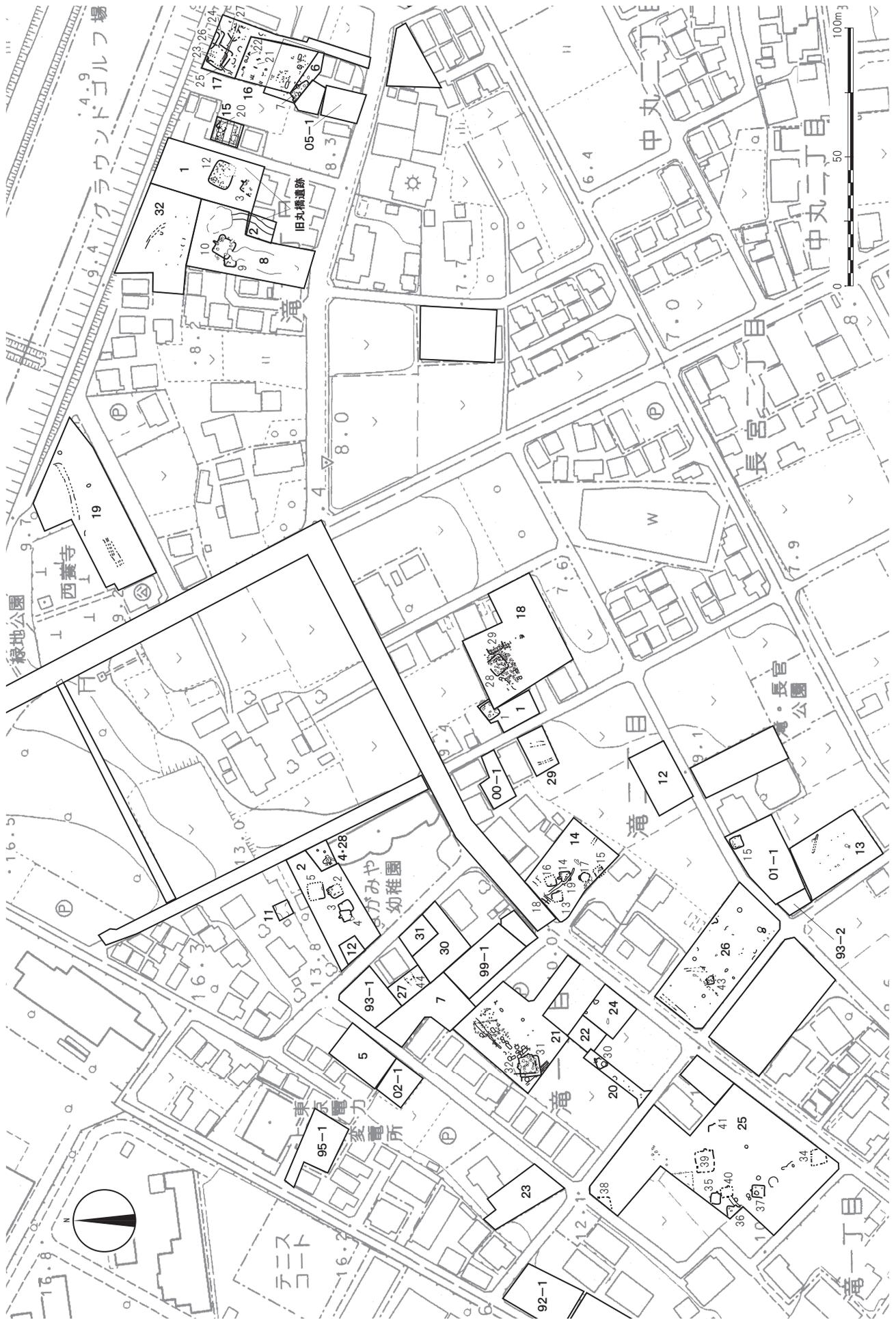
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。



第32図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第25表 滝遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
丸橋1次	滝3-3-77～81	(1976.6.26～27) 1976.7.24～8.12	543	建売住宅	古墳前期住居跡1・後期住居跡1	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合	上遺調
丸橋2次	滝3-3-13	1978.7.26～8.6	210	住宅建設	古墳前期土坑1、現代溝1		上埋Ⅰ
1次	滝2-6-11	1978.10.2～13	129	住宅建設	住居跡1、土師器		上埋Ⅰ
2次	滝1-4-2	1979.4.15～5.7	278	幼稚園プール	住居跡5、周溝、土坑、長甕、土器		上埋Ⅱ
3次	滝1-4-15	1980.6.27～7.3	76	住宅建設	権現山遺跡1地点に変更。欠番とする	権現山遺跡へ変更	上埋Ⅲ
4次	滝1-4-15	1980.7.7～12	105	住宅建設	遺構なし、平安土師器片		上埋Ⅲ
5次	滝1-3-21	1980.7.20～31	330	住宅建設	権現山遺跡2地点に変更。欠番とする	権現山遺跡へ変更	上埋Ⅲ
6次	滝3-3-6	1980.11.20～12.2	166	住宅建設	縄文土坑、奈良住居跡2、縄文早期土器、石器、奈良土器他		上埋Ⅲ
7次	滝1-1-19	1981.7.30～31	400	個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋Ⅳ
8次	滝3-3-15他	1983.11.14～26	990	住宅建設	古墳住居跡2		上埋Ⅵ
83試							上埋Ⅵ
9次	滝1-4-4	1984.5.11～22	466	住宅建設	権現山遺跡5地点に変更。欠番とする	権現山遺跡へ変更	上埋Ⅶ
10次	滝1-3-17	1984.6.1～12	363	住宅建設	権現山遺跡6地点に変更。欠番とする	権現山遺跡へ変更	上埋Ⅶ
11次	滝1-4-2	1984.6.28～30	33.12	物置建設	権現山遺跡7地点に変更。欠番とする	権現山遺跡へ変更	上埋Ⅶ
12次	滝1-4-2	1984.12.22～24	94	住宅建設	遺構遺物なし		上埋Ⅶ
92試(1)	滝1-2-14の一部	(1992.7.6～8)	400	倉庫建設	遺構遺物なし		上埋15
93試(1)	滝1-1-4	(1993.4.23～28)	313.08	共同住宅	遺構遺物なし		上埋16
93試(2)	滝2-2-7	(1993.8.25)	99	個人住宅	遺構遺物なし		上埋16
95試(1)	滝1-3-13	(1995.11.27～30)	462	共同住宅	権現山遺跡14地点に変更。欠番とする	権現山遺跡へ変更	上埋18
99試(1)	滝1-1-6	(1999.10.21～26)	511.09	宅地造成 (土地分譲)	遺構遺物なし		上埋22
00試(1)	滝2-5-20	(2001.1.23～24)	154.7	個人住宅	遺構遺物なし		上埋23
01試(1)	滝2-2-8	(2001.4.17～20)	519.64	共同住宅	奈良初頭住居跡1		上埋24
02試(1)	滝1-3-49	(2002.5.29～30)	165	個人住宅	権現山遺跡16地点に変更。欠番とする	権現山遺跡へ変更	上埋25
05試(1)	滝3-3-5・143	(2005.6.24～27)	350	個人住宅	遺構遺物なし		市内1
立会	滝1-4-1・26・27	(2006.4.15)	2,492	幼稚園	遺構遺物なし		
12	滝2-5-3・4の一部	2007.2.6	472	個人住宅	遺構遺物なし		市内3
13	滝2-2-6	2007.10.24～11.1	737.7	共同住宅	焼土範囲2、ピット8		市内4
14	滝2-5-11・17	(2007.11.8～19) 2007.11.20～12.6	692	分譲住宅	住居跡7、溝3、井戸1、須恵器、土師器		市内4
15	滝3-3-84	(2009.9.2～14) 2009.10.23～11.6	100	分譲住宅	8世紀住居跡1、井戸1、土坑8、ピット20、須恵器、土師器、紡錘車		市内7
16	滝3-145	(2009.12.2～14)	434	宅地造成	ピット3		市内8
17	滝3-3-6・144	(2010.5.6～6.18)	331	分譲住宅	奈良平安時代住居跡5、井戸1、土坑4、溝2、集石		市内10
18	滝2-6-4・6	(2011.6.6～13) 2011.6.14～7.14	1,164	個人住宅	古墳時代住居跡2他、土師器、近世陶磁器等		市内14
19	滝3-4-2	(2011.10.17～24)	1,277.16	分譲住宅	溝2、陶磁器等		市内14
20	滝1-8・9	(2012.5.9～11)	124.45	道路築造	奈良・平安時代住居跡1、時期不明井戸、土坑、ピット		市内12
21	滝1-1-7・26・31	(2012.5.11～21) 2012.7.17～8.25	1,176.25	共同住宅	奈良平安時代鍛冶炉付住居跡1(H31)・奈良平安時代住居跡2(H32・H33)、掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑、ピット、須恵器、土師器、鍛冶関連遺物他		市内12
22	滝1-1-40	(2013.7.30)	114	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
23	滝1-3-5の一部	(2014.2.12)	371	個人住宅	遺構遺物なし		市内18
24	滝1-1-8の一部	(2014.7.16～18)	222.8	分譲住宅	奈良平安時代と見られる土坑2、ピット2		市内20
25	滝1-2-4・32	(2014.7.17～8.26) 2014.9.8～10.31	2,804	宅地造成	古代住居跡8(H34～H41)、掘立柱建物跡1、井戸4、土坑3、溝2、ピット23、須恵器、土器		市内16
26	滝2-5-6・8	(2015.10.19～27) 2015.11.9～10	1,231	個人住宅	縄文時代落とし穴1、古代住居跡2(H42・H43)、時代不明井戸5、土坑7、ピット44、溝2、縄文土器、石器、土師器、須恵器		市内22
	滝2-5-39・40・41・42	(2016.8.24～9.9)		分譲住宅			
27	滝1-1-25	(2015.11.27～12.1)	155	個人住宅	古代住居跡1(H44)、ピット3、土師器、砥石		市内22
28	滝1-4-1・26・27	(2016.9.3～6)	2,492.15	幼稚園園舎建設	古代住居跡1(H45)、ピット、土師器、支脚		市内24
29	滝2-5-46	(2016.11.10)	150.41	個人住宅	溝2、縄文土器、土師器		市内24
30	滝1-1-3の一部	(2017.2.13～15)	303	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内24
31	滝1-1-3の一部	(2017.2.13～15)	109	個人住宅	遺構遺物なし		市内24
32	滝3-3-14	(2017.6.26～29)	784.54	分譲住宅	井戸1、ピット10(近世以降か)、縄文土器、近世陶磁器、泥面子		市内24
33	滝1-1-9の一部	(2018.12.14)	187	個人住宅	掘立柱建物跡、ピット、土師器片		未報告
34	滝1-1-8	(2019.2.20・21) 2019.4.12	333	個人住宅兼診療所	遺構なし、須恵器片、土師器片		未報告



第33図 滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第26表 滝遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

新住居番号	旧調査年度	調査名	調査率	平面形( )は推定	規模( )は残存又は推定値	炉	設置壁・炉位置	周溝	主軸方向	時期	備考	所収報告書
1	1978	第1次1号住居	5/6	隅丸方形	640×(580)×40	炉	中央西寄り	○	S-55-W	4世紀前半	4本主柱穴、方形貯蔵穴 110×95×40	上埋Ⅰ
2	1979	第2次2号住居	ほぼ完掘	正方形	(460)×470×45	K	北	○	N-32-W	7世紀前半	焼失住居、方形貯蔵穴 62×55×45	上埋Ⅱ
3	1978	丸橋第1次3号住居	2/3	正方形	(510×470)×15	K	北東	○	N-38-W	7世紀前半	焼失住居、(4本主柱穴)	上遺調
6		第2次3号住居	完掘	方形	(480×460)×15	—	—	○		9世紀前半		上埋Ⅱ
4	1979	第2次4号住居	ほぼ完掘	長方形	南北340×東西380 ～415×30	K	北	○	N-14-W	8世紀前半		上埋Ⅱ
5	1979	第2次5号住居	3/8	(正方形)	(490)×610×60	—	—	○	不明	8世紀前半	竈は調査区外未調査	上埋Ⅱ
—	1980	第3次5号住居	1/5	不明	(260×270)×30	—	—	○	不明	4世紀前半	権現山遺跡1号住居跡に変更	上埋Ⅲ
7	1980	第6次7号住居	1/3	正方形	620×(250)×12	K2基	A竈:北 B竈:西	○	N-52-E N-37-W	7世紀前半	建て替有り、不整形貯蔵穴 175×95×20 床面焼土範囲有	上埋Ⅲ
8	2001	2001年度範囲確認調査第15号住居跡	完掘	方形	400×400×	K	北	○	不明	(8世紀前半)	今後15号住居跡から8号住居跡に名称変更	上埋24
9	1983	第8次9号住居	2/3	隅丸方形	(500)×470×20	炉3	中央北西寄り	○	—	4世紀前半	焼失住居、床面硬化範囲2ヶ所	上埋Ⅵ
10	1983	第8次10号住居	完掘	正方形	690×660×15	K	北東	○	N-52-E N-37-W	6世紀前半	4本主柱穴、方形貯蔵穴 (80)×75×35	上埋Ⅵ
11	1984	第10次11号住居	完掘	隅丸方形	445×(380)×35	K	北	○	N-5-W	6世紀前半	権現山遺跡に変更	上埋Ⅶ
12	1978	丸橋第1次12号住居	ほぼ完掘	隅丸長方形	980×770×20	土器囲炉	北部	○	N-54-W N-36-E	4世紀前半	床面焼土点在	市史資1
13	2007	第14次13号住居	1/2	方形	370×370×45	K	東	○	N-36-E		貼床	市内4
14	2007	第14次14号住居	4/5	(長方形)	385×(380)×202	K	北	○	真北	8世紀前半	比企型坏多数出土、貼床	市内4
15	2007	第14次15号住居	1/3	不明	(370×-)×20	—	—	—	—		竈未検出、貼床	市内4
16	2007	第14次16号住居	1/4	不明	(250×170)×40	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内4
17	2007	第14次17号住居	1/3	不明	(344×360)×102	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内4
18	2008	第14次18号住居	1/5	不明	(297×270)×30	—	—	○	—		竈未検出、貼床	市内4
19	2008	第14次19号住居	1/5	不明	(450×-)×350	K	北	—		8世紀前半～	14号住居より新	市内4
20	2009	第15地点H20号住居	2/3	隅丸長方形	370×350×398					8世紀		市内7
21	2009	第16地点H21号住居	一部	不明	285×(135)×-	K	東					市内8
22	2009	第16地点H22号住居	一部	不明	—							市内8
23	2010	第17地点H23号住居	プラン	長方形	595×700×27	K	北		N-46-W	8世紀	H24、H25住居より新	市内10
24	2010	第17地点H24号住居	プラン	(方形)	590×(265)×30					8世紀	H23、H26住居より古、H25住居より新	市内10
25	2010	第17地点H25号住居	プラン	長方形	810×700×12				N-46-W	7世紀	H23、H24住居より古	市内10
26	2010	第17地点H26号住居	プラン	(方形)	450×(110)×40					8世紀	H24住居より新	市内10
27	2010	第17地点H27号住居	プラン	方形	420×400×10					8世紀		市内10
28	2011	第18地点H28号住居	完掘	隅丸方形	660×630×18.2	炉			N-34-W	4世紀後半		市内14

新 住居 番号	旧 調査 年度	調査名	調査率	平面形 ( )は推定	規模 ( )は残存 又は推定値	炉	設置 壁・炉 位置	周溝	主軸 方向	時 期	備 考	所収報告書
29	2011	第 18 地点 H29 号住居	1/2	(隅丸長方形)	290 × 648 × 18.2					4 世紀後半		市内 14
30	2012	第 20 地点 H30 号住居	4/5	方形	410 × 390 × 5	K	東	○	N-75-E	9 世紀		市内 12
31	2012	第 21 地点 H31A 号住居	完掘	方形	780 × 770 × 50	K	北・東	○	N-92-E	8 世紀前半		市内 12
31	2012	第 21 地点 H31B 号住居	完掘	方形	640 × 640 × 50	K	北	○	N-2-E	8 世紀前半	鍛冶炉	市内 12
32	2012	第 21 地点 H32 号住居	一部	(方形)	— × — × 25						保存のため未調査	市内 12
33	2012	第 21 地点 H33 号住居	一部	(方形)	—		北		N-0-E		保存のため未調査	市内 12
34	2014	第 25 地点 H34 号住居		(方形か 長方形)	420 以上	K	東	○		7 世紀中頃	全容は不明	市内 16
35	2014	第 25 地点 H35 号住居	完掘	長方形	360 × 220 × 48.6	K2 基	北 東	○		8 世紀中～後半	別住居の重複か建替	市内 16
36	2014	第 25 地点 H36 号住居		(正方形か 長方形)	415 × 535 × 105	K	東	○2		8 世紀前半～ 中頃		市内 16
37	2014	第 25 地点 H37 号住居		正方形	460 × 460 × 66	K	北	○		7 世紀後半	井戸 1 と重複、住居のほうが古	市内 16
38	2014	第 25 地点 H38 号住居									未調査	市内 16
39	2014	第 25 地点 H39 号住居									未調査	市内 16
40	2014	第 25 地点 H40 号住居									未調査	市内 16
41	2014	第 25 地点 H41 号住居									未調査	市内 16
42	2015	第 26 地点 H42 号住居	1/2 以下	(正方形か 長方形)	(250 × 192) × 20	K	北	○?		7 世紀後半		市内 22
43	2016	第 26 地点 H43 号住居	完掘	方形	345 × 303 × 20	K	北	○		8 世紀中頃～ 後半		市内 22
44	2016	第 27 地点 H44 号住居	完掘	不明	305 × ( 250)			○		7 世紀後半～		市内 22
45	2016	第 28 地点 H45 号住居	—	不明	—	K				8 世紀		市内 24

II 滝遺跡第26地点

(1) 調査の概要

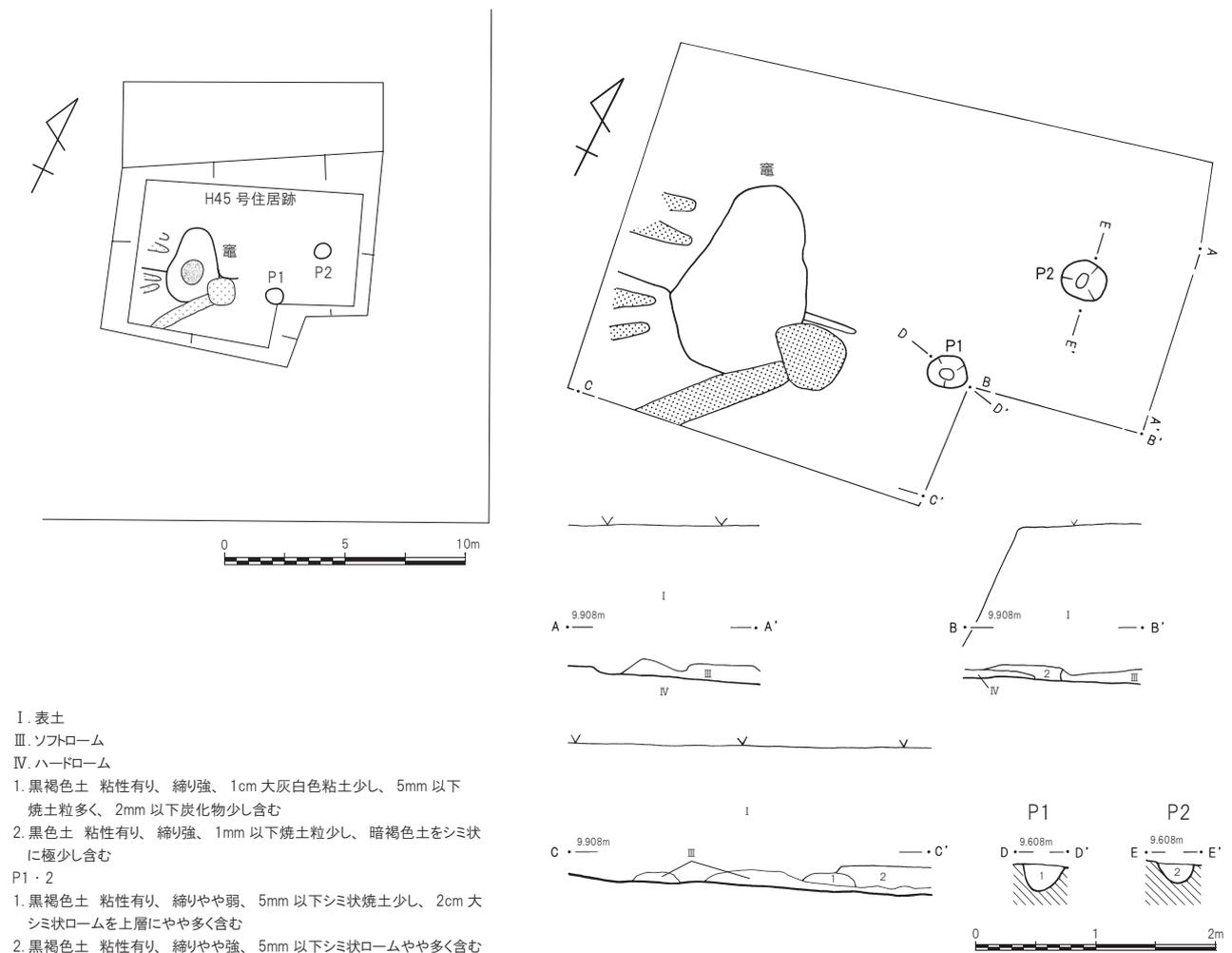
調査は分譲住宅建設に伴い、2015年10月19～27日及び2016年8月24日～9月9日まで試掘調査、2015年11月9～10日まで本調査を行った。調査の結果、平安時代の住居跡2軒、落とし穴1基、土坑7基、井戸5基、ピット多数、溝2条を検出した。詳細については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第23集『市内遺跡群22』（2019年3月刊行）にて報告済みであるため本書では割愛する。

III 滝遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は幼稚園園舎建設に伴うもので、原因者より2016年5月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2016年9月3～6日に試掘調査を実施した。

試掘調査は既存建物撤去時に実施し、重機による表土除去後、人力による精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約120cmである。調査の結果、古代住居跡と考えられる焼土範囲を検出したが、攪乱によって大部分が破壊されており、周辺にも他に遺構・遺物が確認されなかったため、工事立会の措置とした。焼土範囲については写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第34図 滝遺跡第28地点遺構配置図(1/300)、H45号住居跡(1/60)

(2) 遺構と遺物

① H45 号住居跡

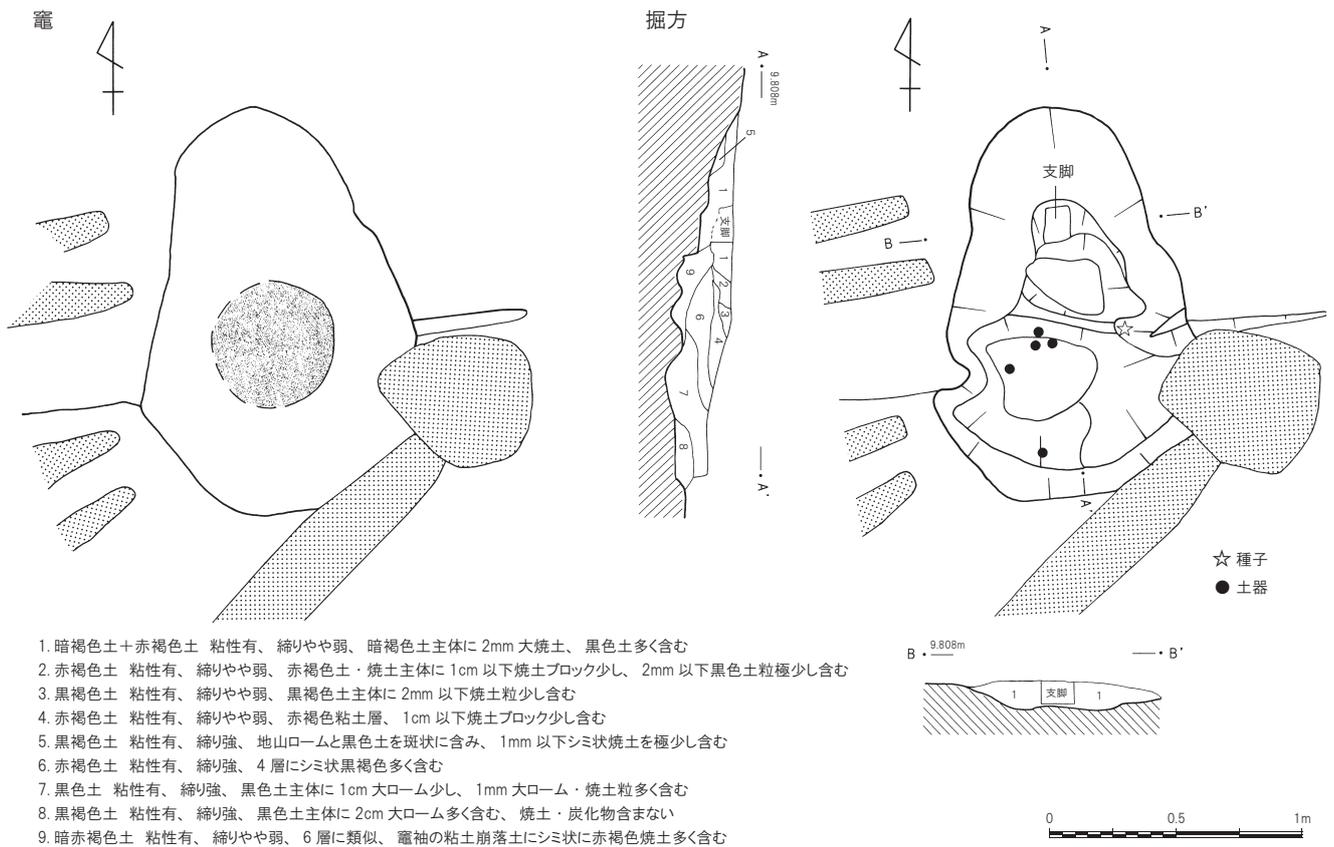
調査で確認した焼土範囲は竈の支脚が確認されたことから住居跡とし、H45 号住居跡とした。竈の燃焼部がごく僅かに残存していただけのため、規模等は不明。竈の規模は長軸 (155) × 短軸 (95) cm である。竈中央部には支柱に利用したと考えられる凝灰岩が出土した。支柱は (12) × (10.5) cm で、四角柱に加工されて使用されたものと考えられる。出土遺物から 8 世紀代の可能性が考えられるが、判然としない。遺構は他にピット 2 基を検出したが、住居跡に伴うものではない。

②ピット

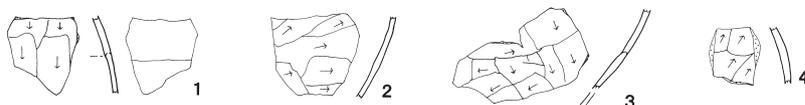
ピット 1 は調査区中央部で検出した。平面形態は円形を呈し、確認面径 31 × 25 cm、底径 11 × 8 cm、深さ 21.6 cm を測る。ピット 2 は調査区東側に位置している。平面形態は円形を呈し、確認面径 38 × 32 cm、底径 13 × 8 cm、深さ 20.8 cm を測る。いずれも出土遺物はなく、帰属時期は不明である。

③出土遺物

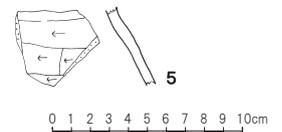
出土遺物は H45 号住居跡の竈周辺から出土した土師器片である。詳細については第 35 図及び第 27 表に掲載した。いずれも非常に器厚の薄い土師器甕の破片である。また、竈付近で出土した植物種子の詳細については本書で附編として報告している。



H45 号住居跡



遺構外



第 35 図 滝遺跡第 28 地点竈・掘方 (1/30)、出土遺物 (1/4)

第27表 滝遺跡第28地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第35図-1	H45号住居跡	土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ、器厚が非常に薄い	8世紀代
第35図-2		土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ、器厚が非常に薄い	8世紀代
第35図-3		土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ、器厚が非常に薄い	8世紀代
第35図-4		土師器・不明	外面ケズリ、内面ナデ	—
第35図-5	遺構外	土師器・甕	外面ケズリ、内面ナデ	—

## 附 編

## 滝遺跡第 28 地点の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

ふじみ野市域の地形的な位置は、武蔵野台地の北端部付近にある。遠藤ほか（2019）による武蔵野台地の地形面区分に従えば、武蔵野台地を古多摩川水系が形成した東側に広がる扇状地としてみると、扇の北側の縁に相当する。狭山丘陵を挟んで扇の南側の縁にあたる立川市周辺に立川面が広がっているのに対応して、北側の縁のふじみ野市域周辺にも立川面が広く分布している。また、市内には、扇状地形成時に削り残されたと考えられる一段高い武蔵野面の M2 面に区分される段丘も分布している。本報告で対象とされた滝遺跡、亀久保堀跡遺跡および松山遺跡は、いずれも立川面に区分される台地上に位置する。

本報告では、滝遺跡第 28 地点で検出された古代の竪穴住居跡とされる遺構から出土した種子の放射性炭素年代測定を行い、遺構の年代資料を作成する。

## 1. 滝遺跡第 28 地点出土種子の放射性炭素年代測定

### 1. 試料

試料は、滝遺跡第 28 地点の H45 住居跡とされた遺構の竈部分とされる遺構内から出土した種子 1 点である。種子は長径 16mm 程度のほぼ完形のモモの核である。

### 2. 分析方法

試料は、試料の状況を観察後、分析用試料とする。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L であるが、試料が脆弱な場合や少ない場合は、アルカリの濃度を調整して試料の損耗を防ぐ（AaA と記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、14C の計数、13C 濃度（13C/12C）、14C 濃度（14C/12C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- II）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。

$\delta$  13C は試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma:68%）に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver & Polach,1977）。暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.3（Bronk,2009）を用いる。較正曲線は Intcal13（Reimer et al.,2013）を用いる。

### 3. 結果および考察

結果を表 1 に示す。今回の試料では、加速器質量分析計による年代測定に必要な炭素量は十分回収で

きている。同位体補正を行った測定値は、1165 ± 20BP である。

表 1 および図 1 には暦年較正值も示す。暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、その後訂正された半減期 (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。測定誤差 2σ の暦年代は、8 世紀後半から 10 世紀中頃までの範囲を示す。

発掘調査所見では、住居跡の年代は出土遺物から 8 世紀半の可能性があると言われていたが、今回の測定結果は、その所見を支持する一方で、所見よりもやや新しい年代である可能性のあることも示唆している。今後さらに年代を検証するとすれば、焼土中の炭化物の測定事例などを得て比較検討する必要があると考えられる。

表 1 放射性炭素年代測定結果

試料	種別 / 性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	δ 13C (‰)	暦年較正年代											Code No.				
					年代値													確率 %		
					cal	AD	778	-	cal	AD	791	1173	-	1159	cal	BP				
滝遺跡 28 地点 16.09.06	モモ 種子	AAA (1M)	1165 ± 20 (1164 ± 20)	-27.67 ± 0.27	σ	cal	AD	805	-	cal	AD	842	1145	-	1109	cal	BP	19.4	YU-10921	pal-12461
						cal	AD	861	-	cal	AD	895	1089	-	1056	cal	BP	29.5		
						cal	AD	929	-	cal	AD	940	1022	-	1010	cal	BP	7.7		
						cal	AD	774	-	cal	AD	900	1177	-	1050	cal	BP	81.7		
						cal	AD	921	-	cal	AD	950	1029	-	1000	cal	BP	13.7		
						cal	AD	774	-	cal	AD	900	1177	-	1050	cal	BP	81.7		

- 1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
- 2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68.2% が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 4) AAA は、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaA は試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。
- 5) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2 を使用
- 6) 暦年の計算には、補正年代に ( ) で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
- 7) 1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
- 8) 統計的に真の値が入る確率は、σ が 68.2%、2σ が 95.4% である

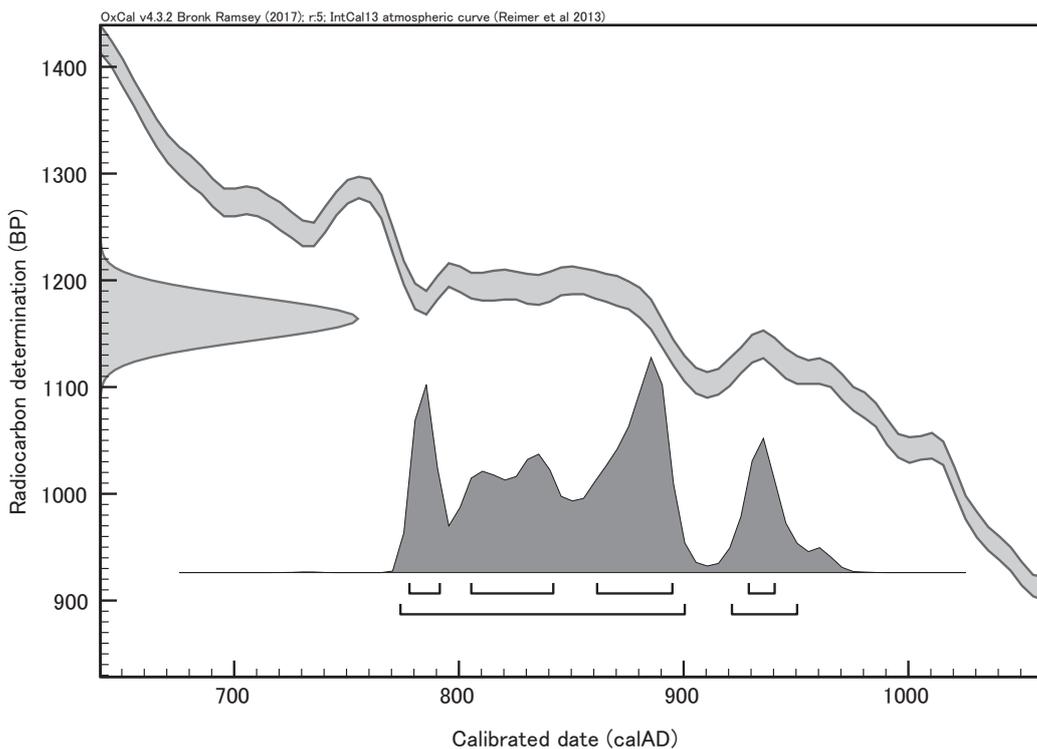


図 1 暦年代較正結果



滝遺跡第 28 地点調査全景



滝遺跡第 28 地点 H45 号住居跡竈完掘

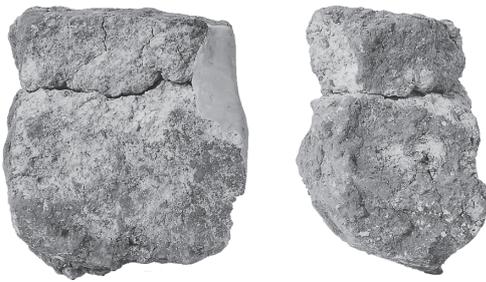


滝遺跡第 28 地点 H45 号住居跡竈遺物出土状況

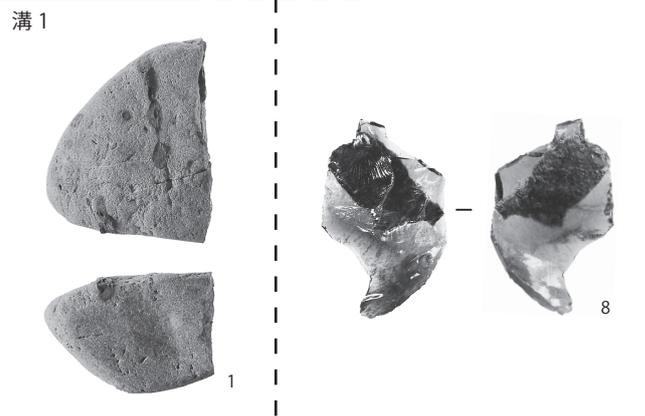
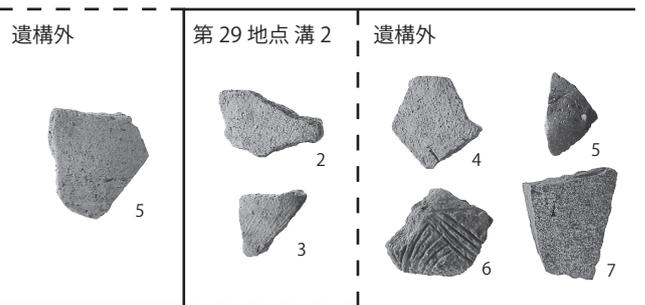


モモ核 (滝遺跡第 28 地点 H45 号住居竈部分)

第 28 地点 H45 号住居跡



滝遺跡第 28 地点出土支脚



滝遺跡第 28・29 地点出土遺物



滝遺跡第 29 地点トレンチ 2